

<p>展開 1</p>	<p>35</p>	<p>3. 「この子がねえ〜」を使って話し合いをする。</p> <p>(5) ①事例シート「この子がねえ〜」を、ファシリテーターが読み上げる。</p> <p>(10) ②わが子がいじめの加害者だったら、保護者としてどんな行動を取るかを考え、付箋に書く。</p> <p>(10) ③模造紙の上側に「保護者」と書いて、線で囲む。</p> <p>④各自が考えた行動を、模造紙に貼り付ける。</p> <p>(10) ⑤グループで話し合い、「とるべき行動」は、誰に対するものなのか、矢印で示す。(模造紙に「対象者」を書いて、線で囲む。)</p>	<p>■個人作業です。自分がAの保護者だったら、どんな行動を取りますか。付箋に書いてみましょう。(1枚の付箋に1つの行動)</p> <p>■模造紙の上側に「保護者」と書いて、線で囲みましょう。</p> <p>■グループで話し合いながら、各自が付箋に書いた行動を、保護者の下に、並べて貼り付けましょう。</p> <p>■グループで話し合いながら、「とるべき行動」は、誰に対するものなのか、模造紙に、とるべき行動の「対象者」を書いて、線で囲み、矢印で示しましょう。</p>	<p>◆ファシリテーターや参加者で役割を決め、朗読劇をすることもできる。</p> <p>◆グループ用に事前配布 ・模造紙 ・付箋 ・マジック ・シール</p> <p>◆重複する内容があれば付箋をまとめる。</p>
<p>展開 2</p>	<p>5</p>	<p>4. 留守宅ウォークをする。</p> <p>(5) ①他のグループに出向き、良いなと思う「とるべき行動」にシールを貼っていく。</p>	<p>■他のグループの留守宅にお邪魔し、良いなと思う「とるべき行動」に、気兼ねなくシールを貼みましょう。</p>	<p>◆シールが足りなければ○印を書かいて表現させる。</p>
<p>展開 3</p>	<p>20</p>	<p>5. 最良と思える「とるべき行動」についてグループで話し合う。</p> <p>(10) ①他のグループが留守中に貼ったシールも参考に、最良と思える「とるべき行動」についてグループで話し合い、複数あれば順位をつける。</p> <p>(10) ②各グループの最良と思える「とるべき行動」を発表する。</p>	<p>■グループで話し合います。他のグループが留守中に貼って行ったシールも参考に、最良と思える「とるべき行動」を考えましょう。複数あれば順位を付けましょう。</p> <p>■後で、いくつかのグループに発表していただきます。発表者は「ウルトラジャンケン」の勝者をお願いします。</p> <p>■各グループで話し合った最良の「とるべき行動」について、発表していただきます。発表者は挙手をお願いします。</p>	<p>◆矢印の上に①②と「とるべき行動」の順番ではなく良いと思う順位</p> <p>◆意見交換の活発なグループをチェックしておく。</p> <p>◆手の上があったいくつかのグループに発表してもらう。(挙手が無い)</p>

				場合、チェックしていたグループを指名する。)
まとめ	10 (5)	6.ファシリテーターがまとめる。	■平成25年度に公布された「いじめ防止対策推進法」を踏まえてまとめをします。	
<p>■加害者の保護者は、冷静に子どもと話し合い、注意深く、存在するいじめの事実確認をすることが大事です。また、状況により「うちの子は悪くない」と思うかもしれませんが、暴力をふるった事実を受け止め、キチンと被害者の子どもや保護者に謝ることも大事なことです。</p> <p>さらに、加害者である子どもに、被害者の子どもの気持ちを察したり自分を振り返らせたりし、責任行為や思いやりを説諭することで、「本当に悪いことをした」という深い反省と「二度としない」という再発防止の決意をさせなければなりません。そして、子どもが加害者になってしまった場合、家庭を振り返り、これまでの子どもへの接し方など反省するところは改善をするといった保護者自身の努力も大事です。</p> <p>■加害者側、被害者側の当事者の立場や傍観者の立場であっても、いじめを子ども同士とか当事者家庭の問題と捉えず、クラスや学校、地域の問題として捉え、より良い人間関係や信頼関係を築いていくことが、いじめの抑止や解決に立ち向かう行動力となることを理解しましょう。</p>				
	(5)	7.ふりかえりシートに記入する。	■最後に、本日の学習を振り返っていただき、終わりしたいと思います。	

(80分)

【学習資料】

「この子がねえ〜」

携帯電話の呼び出し音（ナレ）：「ピッピピ・ピッピピ…（繰り返し）」

A君の母：「あら電話だわ。忙しいのに誰かしら？」

「シモシモ、あらB子さん(Bちゃんの母) お久しぶりね。お元気だった？」

Bちゃんの母：「今晚はA子さん(A君の母)。ご無沙汰です。今、お店大丈夫？」

A君の母：「…大丈夫よ。今、暇だから。何？」

Bちゃんの母：「気を悪くしないでね。実はこないだね、うちのBがCちゃんと学校の帰り、おたくのA君とD君とE君の3人でF君を田んぼに落としているのを見て言うの。また別の日にも叩いたり蹴ったりしているところも…おたくのA君のことだけに心配になって…どうしようか迷ったんだけど、思いきってA子さんに電話したの…ごめんね。」

A君の母：「え！うちのAが、F君を田んぼに落としたり、叩いたり蹴ったりしてるってこと、それもD君とE君と3人で？ほんとに？それじゃあまるで「いじめ」じゃないの。そんな子に育てた覚えはないんだけどなあ。でも、B子さん、よく知らせてくれたわ、ほんとにありがとうね。」

ナレ：お店が一段落したA君の母は、用意しておいた夕食をテレビを見ながら食べているA君に声をかけました。

母：「今日は遅かったなあ、宿題は終わったん？」

A：「まだ…。後でやるって〜。それに母さん、明日休みだよ。」

母：「休みって言っても、朝早くからスポ少だが。ごはん食べたら風呂入って、宿題して寝ないけんで。」

A：「は〜い。」

ナレ：A君の母は、Bちゃんのお母さんからの電話内容について、A君に確かめようと思っていましたが、いつもと変わらない笑顔のA君に聞くことができませんでした。

お店が終わった後、事の次第を夫に話しました。

父：「ほんとうにうちのAが？子ども同士の悪ふざけじゃないんか。でも、3対1は良くないけどな。」

母：「まだ、Aにも確かめてないけど、B子さんの話の様子ではF君をいじめているグループの中にAもいるみたい。もしF君にケガでもさせていたらと思うと…何だか心配だわ。」

父：「Aは人にケガをさせるような子じゃないけど…。子ども同士のことだから親が騒がなくても大丈夫だろう。」

ナレ：夜遅く、枕元にユニホームを置いて、ぐっすりと寝ているA君のあどけない顔を見ながら、A君の母は思わずつぶやきました。

母：「この子がねえ〜」

行動図(例)

